

研究発表もうしこみフォーム

氏名：其布爾哈斯（チベルハス）

氏名のローマ字表記：Chiberhas

所属：内モンゴル大学モンゴル学院

専門分野：ダグル語、モンゴル語の比較研究

発表のタイトル：ダグル語における場所的な格について

発表要旨（600字～800字程度）：

ダグル語はモンゴル語族に属する言語であり、ボトハ、チチハル、ハイラル、新疆という4つの方言に分かれる。ダグル語には基本的な格として主格、属格、対格、与位格、具格、奪格、共同格7つの格があることについて、研究者の間で意見が一致しているが、恩和巴図（1988）によれば、このほかに以下のような7つの場所的な格が認められる。

1. 程度格：格表示が-*ʃa:r*/-*ʃə:r*（チチハル方言では-*ʃa:/*-*ʃə:*）であり、高さや深さの程度を示す。今までの調査で数例しか確認できてない。例えば、*manɣilʃa:r*「額まで」、*tulye:ʃə:r*「膝まで」

2. 確定方位格：格表示が-*ka:kəl*/-*kə:kəl*～-*ka:ki*/-*kə:*であり、動作・行為の確定した時間と位置を表わす。例えば、*əne:ka:ki*「正月の頃」、*tərkə:kəl*「ちょうどその頃」。

3. 不定方位格：格表示が-*a:tən*/-*o:tən*/*ə:tən*/-*e:tən*/-*ja:tən*/-*j:tən* または-*a:kul*/-*o:kul*/-*ə:kul*/-*e:kul*/-*ja:kul*/-*jə:kul*などの形式である。ある出来事が発生する大まかな場所を表わす。例えば、*aul:tən*「山の付近」、*ʃoŋko:kul*「窓の付近」

4. 由来格：格表示が-*a:tr(s)*/-*o:ta:r(s)*/-*ə:tə:r(s)*/-*e:ta:r(s)*/-*e:tə:r*/*ja:ta:r*/-*jə:tə:r*であり。ある動作・行為が始まる大まかな方向を表わす。例えば、*bə:dʒnə:təfromr*「北京のほうから」、*xwaina:ta:r*「後ろのほうから」

5. 方向格：格表示が-*da:/*-*də:*であり、動作の方向を表わす。例えば、*ɣia:ji dʒurdə:*「町へ」。

6. 目標格：格表示が-*ma:ji*であり、動作・行為の明確な目標を示す。例えば、*tərma:ji*「彼に向かって」、*jamma:ji*「彼に向かって」。

7. 定格：格表示が-*n*でありは、修飾の意味を表わす。ごく少数のなぞなぞ、決まり文句または固有名詞にしか現れない。例えば、*əusən maɣəlti*「草の帽子」、*ʃa:sən nidti*「紙の目」。

ダグル語の4つの方言について私が行なった現地調査では、上記の場所的な格がこの4つの方言で使用されている状況が相互に違いがあることが分かった。具体的に言えば、ボトハ方言は6つの場所的な格を保持しているが、チチハル方言には程度格と方向格が存在する。新疆方言では確定方位格、不確定方位格と方向格が保持されている。ハイラル方言では、程度格、確定方位格、方向格が存在する。本発表ではダグル語における場所的な格が4つの方言でどのように使用されているかについて説明する。